

埋蔵文化財 愛知



no.42



前方後方墳 SZ01（南から）1995.7.29

にしじょうめん 西上免遺跡

愛知県尾西市開明に所在する西上免遺跡では、3世紀に遡る前方後方墳が発見された。墳長約40mで、周囲を幅9mほどの周溝が前方後方形に掘削される。墳丘部はすでに大きく削平されていたが、くびれ部や前方部をとりまく南周溝からは多量の土器が出土している。

（関連記事はV頁参照）



前方後方墳

「美濃」刻印須恵器

「美濃」「美濃国」刻印須恵器は全国で唯一の国名を印した須恵器であり、その生産窯も岐阜市芥見所在の老洞1号窯と朝倉古窯群、及び各務原市須衛町所在の太田古窯に限定される特殊なものである。なかでも老洞1号窯は、総出土数の内6.7%の1290点が刻印須恵器であり、その生産期間は8世紀第1四半期とごく限定された時期の生産である。国名入りの刻印須恵器は、官窯の生産品として中央へ送られたり、国司管轄下の機関や寺院へ供給され、また余剰生産品が生産地周辺の在地に流通したと考えられている。

ところで、8世紀第1四半期は美濃国では笠朝臣麻呂の治世と一致する。彼は、慶雲3年(706)美濃国守に任ぜられて以来、養老4年(720)、右大弁に遷任するまでの実に15年に渡る間、美濃国の経営に力を注いだ。その間、尾張・参河・信濃4ヵ国の按察使にも就任し、広域的に律令国家成立施策を実行した当事者である。彼が美濃国を去った後に刻印須恵器の生産が停止していることも、この刻印須恵器がより特殊な生産品

である裏付けといえる。

県内では、美濃国と木曾川を挟んで接している古代葉栗郡域から出土している。(出土地参照)古代葉栗郡は『和名抄』によれば葉栗郷・河沼郷・若栗郷・村国郷・大毛郷の5郷がみられる。このなかで村国郷は現在の江南市村久野を中心とする地域とされ、村久野は村国の転訛とされている。美濃国各務郡にも村国郷が存在し、壬申の乱で活躍した村国男依一族がここを本貫地としていた。美濃国各務郡には村国神社二座と村国真墨田神社があり一族の氏神とされる。また、尾張国村国郷も一族の管領地域と考えられており、村国男依建立といわれる音楽寺、また村国神社が存在する。このように、村国郷は美濃国と深い関わりのある地域と考えられ、刻印須恵器も流通したといえる。この他、現在の江南市宮田字貝売付近から集中して出土しているのは、木曾川大船航行の限界地がこの付近とされているのと何か関わりがあるように思う。

葉栗郷は、その想定される地域から刻印須恵器の他に蹄脚硯が出土していることなどから葉栗郡の郡家のおかれた主郷と考えられている。その所在地は、現在の一宮市浅井町尾関の地が有力である。この地は浅井北古墳群が存在

する地でもあり、7世紀後半葉栗臣人麿建立とされる黒岩廃寺も存在する歴史背景の強い土地柄である。この地からの出土は単なる余剰生産品流通地とはまた違った意味がある。

大毛郷のなかで刻印須恵器を出土した大毛池田遺跡は、古代葉栗郡に存在した氏族の1つ伊福部氏に深い関わりをもつ伊富利部神社がこの付近に存在する。伊福部氏の勢力基盤下にあったと考えられるこの地で刻印須恵器が出土しているのは、何か特別な意味を持つのではなかろうか。

こうした県内の刻印須恵器出土地は、消費地域という性格と共に何らかの形で美濃国に関わりのある地で出土している。

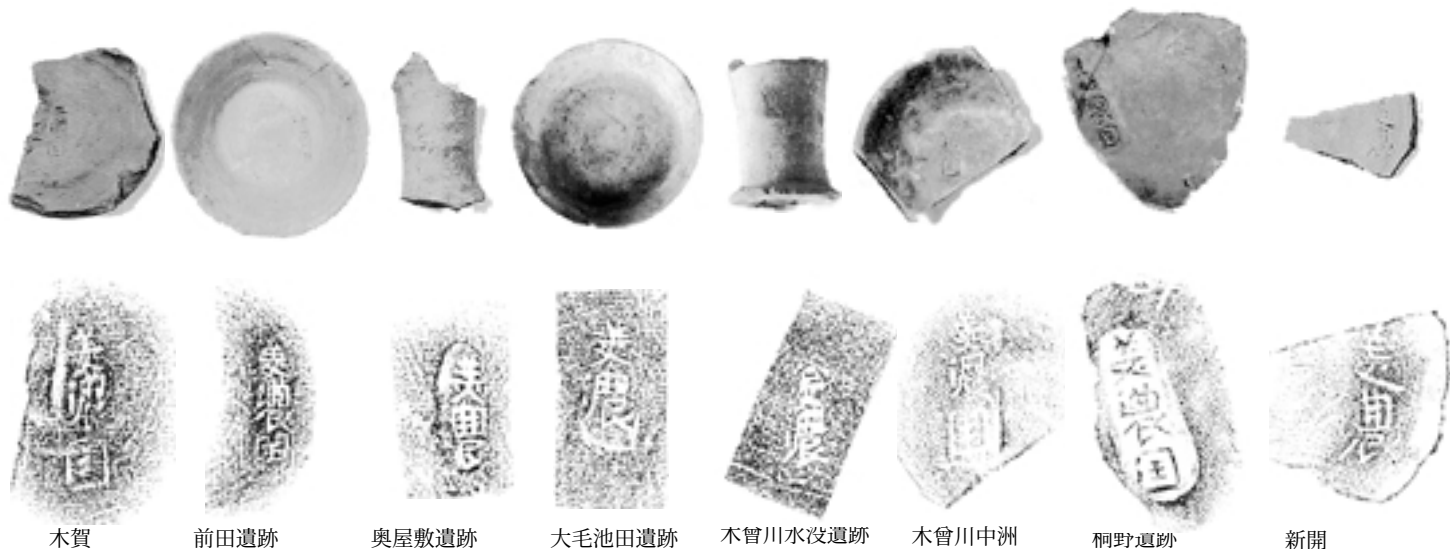
参考文献

小川芳範1995『「美濃」刻印須恵器からみた大毛池田遺跡』『年報 平成6年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター

Tips

笠朝臣麻呂

慶雲3年(706)美濃守となる。和銅7年(714)吉蘇路の功績により封戸70戸・功田6町賜わる。霊龜2年(716)尾張守を兼任。養老元年(717)元正天皇美濃国行幸。養老3年(719)尾張・参河・信濃を管する按察使となる。養老4年(720)右大弁となり中央復帰。養老7年(723)造観世音寺別当となり太宰府へ。



木賀

前田遺跡

奥屋敷遺跡

大毛池田遺跡

木曾川水没遺跡

木曾川中洲

桐野遺跡

新開

「美濃」
刻印

出土地一覧（1995年8月現在）

愛知県

一宮市浅井町尾関字奥屋敷 奥屋敷遺跡
一宮市高田字前田 前田遺跡
一宮市大字大毛字池田 大毛池田遺跡
尾西市起字堤町先 尾西市木曾川水没遺跡
葉栗郡木曾川町玉ノ井先木曾川中洲
江南市尾崎字桐野 桐野遺跡
江南市後飛保字新開
江南市宮田字貝売
江南市木賀東町新塚（旧長塚）
江南市村久野字寺前

長野県

長野県飯田市座光寺 恒川遺跡
長野県松本市島立字宮原・西原 南栗遺跡
長野県松本市芳川平田 平田本郷遺跡

三重県

三重県多気郡明和町 斎宮跡遺跡他
三重県鳥羽市安楽島町 賛遺跡

奈良県

奈良県奈良市佐紀町 平城宮跡
奈良県橿原市 藤原宮跡
奈良県月ヶ瀬村茶畑 尾山代遺跡

大阪府

大阪府守口市金田二丁目 大庭北遺跡
大阪府大東市北新町 北新町遺跡

岐阜県

岐阜市芥見 老洞1号古窯跡（生産窯）
岐阜市芥見朝倉古窯跡（生産窯）
各務原市須衛町 太田古窯跡（生産窯）
岐阜市芥見字長山 長山遺跡
岐阜市岩滝古宮
岐阜市茜部境川
岐阜市長良真生町 城之内遺跡
各務原市蘇原ノギ山（川崎山）
各務原市蘇原村雨町 村雨町遺跡
各務原市須衛町
各務原市須衛町＊
各務原市三井町寺浦 三井遺跡
各務原市那加前洞新町前洞遺跡A地区
各務原市蘇原北山町 北山古窯跡＊
大垣市林町
大垣市荒尾
大垣市南一色町若林紡績内
大垣市青野町美濃国分寺跡
関市東田原
関市下有知 檀之木洞遺跡
関市下有知 重竹重竹遺跡B地点
美濃加茂市太田町西町
美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 尾崎遺跡
本巣郡真正町真桑
可児市川合地区 川合遺跡群宮之脇A地点
不破郡関ヶ原町野上字天楽
不破郡垂井町垂井

※このたび東海学園女子短期大学教授岩野見司氏、一宮市博物館土本典生氏のご理解とご協力により、江南市宮田字貝売3点、同市村久野字寺前1点の資料を新たに加えることができ、また同様に＊印地点を出土地一覧に掲載できました。感謝の意を表します。

さらに、出土地としてこれまで江南市赤童子字東山・各務原市蘇原飛鳥町があがっていましたが、それぞれ江南市木賀東町新塚・各務原市蘇原北山町北山古窯跡で統一したいと思います。



遺跡調査速報

かどまぬま 門間沼遺跡

葉栗郡木曾川町 愛知県埋蔵文化財センター

本遺跡は、東海北陸自動車道の建設に伴い、平成6年度より調査を実施している。今年度の調査区は、昨年度の調査区の東側から大毛池田遺跡に南接する部分(約30,000㎡)である。

現在までのところ、昨年度検出された微高地の東端が確認され、その東側から古墳時代前期の水田跡

は、微高地縁辺の高位置から始まっている。そのため、この部分では、畦が等高線にほぼ沿う形になっている。水田跡以外では、弥生時代中期の溝、土坑、6～7世紀の集落跡、10世紀前半及び14世紀代の井戸、溝などが確認されている。

(埋文セ 中野良法)



古墳時代前期の水田

いっしきあおかい 一色青海遺跡

中島郡平和町 愛知県埋蔵文化財センター

一色青海遺跡は、稲沢市一色青海町及び中島郡平和町須ヶ谷に所在し、日光川と三宅川に挟まれた微高地(標高1m～2m)に立地する。当遺跡の調査は日光川上流流域下水道事業に先立つもので、平成5年度より継続実施されている。本年度の調査は総面積5600㎡である。

本年度検出した主な遺構は、弥生時代中期後葉の竪穴住居51棟、掘立柱建物3棟、方形周溝墓2基、土壇多数、旧河道1条と中世

の方形土壇14基が確認されている。この中でB区で拡張された方形周溝墓や、C区で焼失した弥生時代の竪穴住居が数棟重なって検出された。

これまでの調査により、三宅川から蛇行しながら流れる北側の旧河道に沿って集落域が、また集落の東側に接して墓域が想定できるようになった。

(埋文セ 蔭山誠一)



焼けた竪穴住居

えんつうじ 円通寺古墓

大府市共和町 愛知県埋蔵文化財センター

本遺跡は、大府市共和町字小仏地内に所在する。調査は環状2号線建設工事の事前調査として平成7年4～7月にかけて行った。試掘調査の結果近世墓の存在が確認されていたが、検出された遺構は土坑状の掘り込みが圧倒的に多く100基以上を数え、これに最近まで機能していたと思われる溝が3条加わる。これらの土坑の約4分の1は人骨または骨片が出土し

ており、残存状況の差はあるものの多くのものが墓壙を目的として掘り込まれた可能性が考えられる。出土遺物は検出面及び遺構から、煙管・六道銭の可能性がうかがえる寛永通宝・近世陶磁器・土器などである。これらの出土遺物の時期は、ほとんどのものが19世紀以降のものと思われ、近世前・中期のものは少ない。

(埋文セ 松田 訓)



人骨出土状況

にしじょうめん
西上免遺跡

尾西市開明字西上免 愛知県埋蔵文化財センター

西上免遺跡は東海北陸自動車道の建設に伴い、平成2年度より継続的に調査を行い、本年度の調査をもって同遺跡の東海北陸自動車道建設予定地内の調査は終了した。

遺跡は標高6m前後に位置し、弥生時代中期・古墳時代および奈良時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡であり、発掘調査によって奈良時代から鎌倉時代の溝・井戸・建物、古墳時代初頭の墳丘墓・水田、弥生時代の土坑などが

見つかっている。

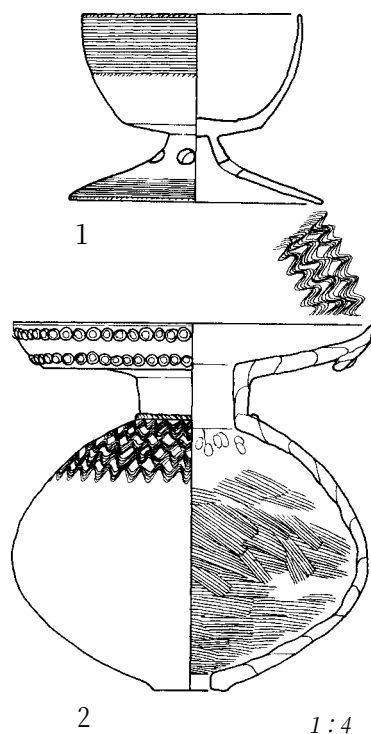
本年度調査区においては、古墳時代初頭の墳丘墓および前方後方墳があらたに発見できた。その内前方後方墳（SZ01）は墳長約40mで、後方部は一辺約25m、前方部長15m、前方部幅13mを測り、その周囲には幅約9mの周溝が前方後方形にめぐり、前方部では溝SD25（幅約3m）が前方後方墳を横断するかたちで設定されている。さらに前方後方墳SZ01の西側には近接して溝SD19が掘削

されており、SD19とSD25によって区画された内側に前方後方墳SZ01が営まれたものと推定できる。前方後方墳の周溝およびSD25からは多量の土器が出土し、その多くは廻間Ⅱ式前半期を中心とするものであり、したがって前方後方墳の造営が3世紀中葉を中心とした時期まで遡る可能性が考えられよう。

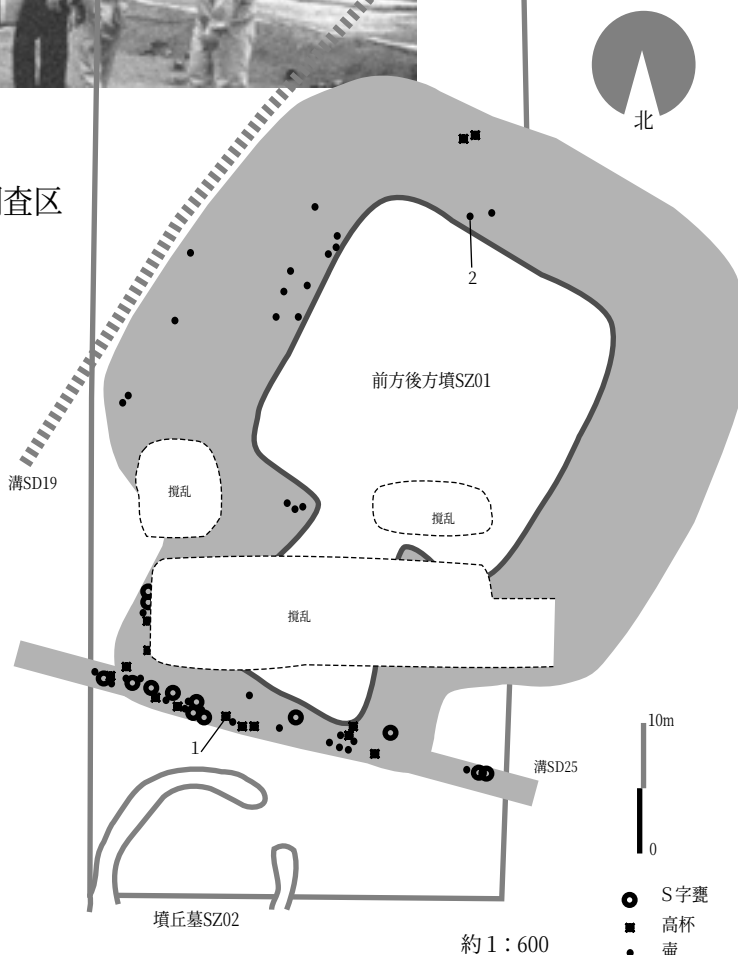
（埋文セ 赤塚次郎）



現地説明会 1995.6.18



95調査区



遺跡調査速報

いちみち

市道遺跡

豊橋市牟呂町 豊橋市教育委員会

本遺跡は、豊橋市の西部、牟呂町に位置し、三河湾に向かって舌状に延びた低位段丘の先端部近くに立地する。遺跡は、奈良～平安時代の寺院跡及び官衙的性格を有するもので、土地区画整理事業に伴って昭和59年度から継続的に調査を行っている。今回の調査区は、方形区画の北西隅部分に当たり、金堂や講堂を囲むように巡ら



調査区全景（西から）

された柱穴列（堀状遺構）の北辺部分やこれに伴う雨落ち溝、瓦窯（市道3号窯）等が確認された。

市道3号窯は、本遺跡で検出された確実な瓦窯の2例目である。3号窯は、方形区画のすぐ外側から検出された全長3.8m、幅1.6m程の小型のものであるが、全体的に良好に遺存している。形態的には、焼成室には作り付けの

畝は存在しないが、磚を並べることによってこれを代用したロストル式平窯である。3号窯からは、磚以外に平瓦・丸瓦・須恵器小片が出土しているが軒丸瓦や軒平瓦は見られない。

市道3号窯（焼成室 北から）



このため構築時期ははっきりしないが、昭和59年に検出された市道1号窯よりも定形化し、また小型化していることから9～10世紀代のものと考えられる。

（豊橋市教育委員会 小林久彦）

はばした

幅下小学校遺跡

名古屋市西区 名古屋市教育委員会

当遺跡は、名古屋市西区幅下一丁目に所在し、名古屋城下町のうち、北西部の沖積低地に位置している。調査地点は幅下小学校の体育館建築予定地（約1500㎡）である。発掘調査は、4月中旬から8月上旬の間行われた。検出遺構の時期は、すべて江戸時代およびそれ以降であった。調査地点は、町人地（戸田町）にあたり、1610年とされる清洲越以来、昭和4年

頃まで、ここで酒の醸造業を営んだ「井桁屋」（幕末頃からは、酒造を他へ譲り味噌、溜の製造販売となった）の一部と思われる。

遺構のうち、主なものは、巾下水道に関する木樋、木桝、竹管、上水井戸や道路跡（中央部分に水道の木樋が埋設していたと思われる溝の断面を確認）の他、米を蒸したと思われる竈状遺構、蔵の基礎などがある。遺構からは、

江戸時代の木製品、陶磁器類が検出された。

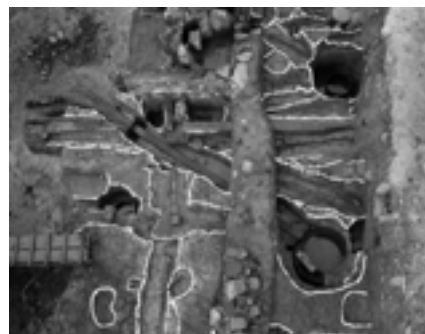
巾下水道は、寛文3年（1663）に計画された。庄内川から御深井堀にひいた水を木樋や桝をつないで道路、屋敷地に埋設し、井戸水の悪かった城下町の西側低地に給水したものである。

（見晴台考古資料館 水野裕之）



竈状遺構（酒造り
のため米を蒸す施
設と思われる）

木樋が接続する上
水井戸など





財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、昭和60年4月に埋蔵文化財の調査及び研究などのために設立され、本年度で10周年を迎えました。

つきましては創立10周年記念事業を下記のとおり開催いたします。



8

○ 講座

対談 『朝日遺跡を考える』

会場；愛知県埋蔵文化財調査センター 日程；全6回 土曜日14:00～15:30

9

- 第1回（8月19日） 縄文的世界と弥生的世界
- 第2回（9月2日） 食生活を復原する
- 第3回（9月16日） ムラを囲うこと
- 第4回（9月30日） 弥生時代の地域の特徴
- 第5回（10月7日） 朝日遺跡のその後
- 第6回（10月21日） 見学（朝日遺跡発掘調査現場）

10

○ 展示

『朝日遺跡への招待』

10月14.15日・12月9日
10月28.29日・12月9日

会場；朝日遺跡発掘調査現場

『親子の考古学教室』

○ 発掘体験教室

11

期間；10月3日～11月30日
会場；愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
(9:00～17:00 月曜日休館)
共催；愛知県教育委員会・愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

12

○ シンポジウム

日時；12月3日 9:30～16:00
会場；愛知県婦人文化会館
共催；愛知県教育委員会

『朝日遺跡を科学する』

記念講演 「朝日遺跡と濃尾平野」
井関弘太郎（名古屋大学名誉教授）



問い合わせ 愛知県埋蔵文化財センター調査課 10周年担当

10周年 記念事業

対談 朝日遺跡を考える

東日本屈指の巨大集落「朝日遺跡」を多様な角度から対談型式にて考える、講座『朝日遺跡を考える』が、さる8月19日と9月2日土曜日午後2時から愛知県埋蔵文化財調査センター研修室にて開催された。予定人数50人強の参加者を得て、第1回縄文的世界と弥生的世界・第2回食生活を復元すると題し、講師2名と司会者1名という構成で講座は進行する。

ここで第2回の講座内容を取り上げてみたい。

まずテーマは「食生活を復元する」で、考古学の立場からは樋上昇（埋文セ調査研究員）が、自然科学

の立場からは鬼頭剛（埋文セ調査研究員）の発表があった。司会は伊藤太佳彦（埋文セ調査研究員）である。樋上は朝日遺跡から出土した食生活にかかわる考古遺物として、農具、狩猟具、漁労具をとりあげる。朝日遺跡からは弥生中期と後期に属する大量の農具類が出土して、これらを耕作具、土木具、収穫具、調整具に分け、米作りの過程でのこれらを用いての説明を体から、弥生人がどのようなかを考へたのかを考察した。植物遺体には炭化米のほか、数多くの種子類があり、さまざまな植物を食料にしていたことが明らかとなった。さらに、プラントオパールを加えた。魚類や貝類も淡水性から海水性まであり、数多くの種類を獲っていたことを強調する。また、動物遺体に関しては、有名な弥生ブタについて、一口に食生活といってもきわめて多岐にわたっており、わずか1時間半で語り尽くすのは困難であったが、食生活という視点から朝日遺跡を整理できた点の一つの成果であった。

(H)

編集後記

埋蔵文化財愛知のレイアウトがほぼかたまり、今後の広報紙の新たな枠組みが見えてきました。さまざまなご意見を賜わり、検討を重ねながら埋蔵文化財愛知を発行して行こうと思っております。ご協力宜しくお願いいたします。

ところで本年度の10周年記念事業も予定どおり進行し、担当者は10月からの展示会・冊子等の準備に忙殺されているようです。一方、調査現場では6

月・7月の各現場での現地説明会の開催を経て、暑い夏をどうやら乗り切ろうとしております。またさらに第16回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会の開催（6月8・9日 於名古屋）もあり、あわただしく夏を迎え秋がやってきました。(A)

埋蔵文化財愛知 no.42

発行	平成7年10月20日
編集	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
〒498	愛知県海部郡弥富町前々須新田字野方 802-24
TEL	0567-67-4161～4163 FAX 0567-67-3054
印刷	クイックス